

子どもたちと踊れることが幸せ / 佐々木 浩美さん

下川でのリアルな暮らしぶりを町内の方にお話ししていただくコーナー。今月は養護教諭を務めながら町内でダンスチームを立ち上げ、活動する佐々木浩美さんです。



音楽を聞いたら体が勝手に動くくらい躍ることが好きで、大学生のころにも少しダンスを習っていたことがあります。30代の頃、よさこいがブームになったのをきっかけにチームに所属し、13年間、よさこいに夢中でした。当時、いろいろなイベントや地域のお祭りに呼ばれて、よさこいを踊っていました。下川町に呼ばれた時のお客さんの楽しそうな様子がすごく印象的で。その頃から「下川、いいな」って思っていました。踊り以外でも、町内の五味温泉が気に入りで入りに行ったり、飲食店にごはんを食べに来たり。常に新しい動きがある町だなと思って、ずっと好きでした。

今年で働き始めて4年目になります。下川町は初めて異動の希望が叶った場所なんです。養護教諭として小中学校で仕事をしていましたが、下川の子とも達は本当に素直。初めて会う人に対しても特に警戒せず、転入生も馴染むのがすごく早いです。授業で森に入ること多いし、校舎に木がふんだんに使われているのも、森に囲まれた地域ならではの感覚です。他にも、学校のクラブ活動では先生ではなく地域の方々が講師になって、釣りや虫のことを教えてくれたり、スポーツや手芸と一緒に楽しんだりして、子どもたちと地域の大人の距離が近いんです。小学校と中学校が1校ずつしかないからかもしれないですが、どんな子も自分たちの地域の子だという意識が強いのかなと思います。



よさこいは引退しましたが、躍ることは好きで名寄や隣の美深町のダンスチームに所属していました。でも知り合った下川の方に「町内にはダンスを習える場所がないから教えてくれないか」と相談していたので数年前「FunFunもりもりDance」というチームを

立ち上げました。現在は20人くらいが所属して、下川町のお祭りやイベントの際はダンスを披露しています。私は70歳まで現役で踊り続ける予定なので、一緒にダンスを楽しみたい方は、大人も子どもも、ぜひ声をかけてほしいですね。

しもかわ財団の活動紹介

「つなぎ・ささえ・つくる」

財団の活動内容／移住フェア

しもかわ財団の3つの行動指針の「つなぎ」の事業である総合移住促進事業で実施している「移住フェア」についてご紹介します。

コロナ禍では直接会うことが敬遠される傾向があり、オンラインイベントを中心に行っていました。昨年コロナが明けてからは、オンラインよりもリアルで会うことの価値が再認識される情勢となったため、施策を変更し、移住フェア等移住検討者と直接接点をもてるようなイベントへの出展を積極的に行っていました。

様々な団体が主催する移住フェアは、一年を通して頻繁に行われていますが、その中で北海道移住に興味のある人が多く集まる「北海道移住・交流フェア」を中心に、年に5回前後参加しています。



今年度は、6月東京、9月福岡・大阪、11月仙台で開催された「北海道移住・交流フェア」に出展しました。東京・福岡・大阪の前日には、道内の他自治体と連携した移住PRイベント（※）も抱き合わせて行い、2日とも参加する人もいて、移住へ大きな歩みを進める例もみられました。

また、大阪では移住フェア内の「セミナールーム」という枠も活用し、地域おこし協力隊求人や町内事業所の仕事を紹介するセミナーも実施しました。

（※）このイベントについては、別の号でご紹介いたします。

■お問い合わせ

総務企画課企画調整係

☎ 4-2511 内線232

☆ 4-251102

しもかわ地域振興機構（通称：しもかわ財団） ☎ 4-3511